

栄光その手に

加治木高校生徒会新聞
軌跡



第5号
2022.12.05.(月)

制作
下村将太郎

発行
第75代生徒会

- 一、栄光その手に
- 二、募金活動報告
- 三、共通テストカウントダウン
- 四、言の葉

- 五、好きになっちゃう放課後
- 六、二百字の本棚
- 七、LOGICAL
- 八、編集後記。



十一月二十一日の全校朝会で、表彰式が行われました。前回十月に引き続き、多くの部活動・個人が優秀な成績を残しています。

今回表彰された科学工学研究部は、『ひまわりの東西とその利点』と題する研究で、九州総文祭と来年開催される2023かごしま総文の自然科学部門に出場します。また放送部は、朗読部門に一名とラジオ番組部門に一作品が、九州総文祭の放送部門への出場権を得ました。他に、今回の表彰ではありませんが、百人一首部と文芸部、書道部も同じく九州総文祭に出場します。

部活動の大会や校外活動、そして入試など、今後も、加治木高校生のたくさんの活躍が期待されます。

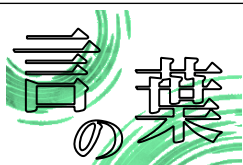


募金活動報告

先月行った募金活動で、合計33,776円が集まりました。赤い羽根共同募金とあしなが学生募金に等しく分配し寄付します。たくさんのご協力ありがとうございました。

■あしなが学生募金■
遺児支援の募金活動で、募金は「あしなが育英会」に寄付

■赤い羽根共同募金■
地域福祉の課題解決に取り組む民間団体の活動を応援する



僕のことを好きじゃない誰かさんのことでくよくよしてる時間はないんだ。
僕は、僕を大好きでいてくれる人を大好きでいるのに、忙しすぎるからね。

——スヌーピー(『ピーナッツ』より)

化学

が好まになっちゃう

放課後

『好きになっちゃう放課後』連載第三回、今回の記事は、理科の福里先生に執筆していただきました。

私たちの身の回りに満ち溢れている学問、化学。理科も文系も楽しめる、化学が好きなになっちゃう放課後のはじまりです！

■□高校時代は、理科よりも数学が好きであった。一つの答えを導く過程が楽しいと思いい、どの教科よりも時間をかけていた。自力で解けない問題があると、模範解答を見て理解しながら解いていたが、たまに途中計算の式が省略されている場面が出てくると、なぜ、この式から次の式へ

が導かれるのか、時間を忘れて考えていた。

■□数学ではなく理科の教職に就いたのは、人に教える場面を想像したときに、理科なら、日常生活において誰でも見たり聞いたりしたことのある、様々な事例や現象を参考に伝えられると思ったからである。

■□化学が苦手な人は、「丸暗記」しようとしているのだと思う。化学には暗記分野も少なからずあるが、理解する分野が圧倒的に多い。苦手な人の思考は、「いきなり暗記→何これ暗号？→マジ無理」となっているはず。得意な人は、「こんな仕組み→理解→図で表すとこんな感じ→覚える」というように頭がはたらく。

■□「理解できれば苦労しない」「そもそも理解できないから困っている」と考えているそのあなた。化学を理解するためのコツがある。まずは「図解」することだ。「文章だけ」で理解しようと思わずに「図で考える」

ということである。教科書に書いてある図を見ながら、自分で一回書いてみるのも良いと思う。

■□化学と日常をつなげてイメージすることも、また大切だ。例えば、スマホはなぜ動くのか。電池があるからだ。電池の中での酸化還元反応により、電子の受け渡しが行われることで、スマホは動いている。例えば、洗剤に書いてある「混ぜるな危険」。なぜ洗剤を混ぜてはいけないのか。そういったことも、化学を通して理解することができる。

■□日常生活を過ごす中で「なぜ」「どうして」と感じる現象に出会ったときには、理科の先生に聞けばすぐに答えを教えてください。化学好き、理科好きへの一歩になればと思う。



福里 光弘

二百字の本棚 03

『罪の余白』

芦沢央

どうしよう、お父さん、わたし、死んでしまう……。ある日突然、学校で転落死した娘。「全然悩んでいるように見えなかった」。クラスメートからの手紙を受け取った、動物心理学者の父。家を吊問に訪れた、娘の親友だったという少女。女子高生たちの罪深い遊戯と娘を思いうあまり暴走する父親の心を、サスペンスフルに描く。これは、学園モノでもミステリーでもない。芦沢央が紡ぎ出す、愛する人を失った者の凄まじい執念と復讐の物語。

LOGICAL

III

前回の問題

八枚のうちわずかに重い一枚のコインを天秤だけで見つけ出すには、最低何回天秤を使う？

答え 二回(さあ、どうすれば良い?)

今回の問題

五つの並んだ箱がある。どれかひとつに猫が隠れており、毎夜、必ず隣の箱に移動する。毎朝ひとつの箱を調べるとき、いつか必ず猫を見つけられるといえる方法はあるか。

編集後記

二〇二二年ももう十二月。先月の中旬からは寒い日が続き、気候も俄かに冬めいてきたようです。期末考査が終わり進研模試の結果も出て、一・二年生の中にはようやく気が抜けたという人も多いのではないかと思います。三年生は、大学入学共通テストまでいよいよ残り四十日ですね。

さて、今号では、『二百字の本棚』が連載第三回となりました。毎回ジャンルに縛られずに、二百字程度の文章で一冊の本を紹介しています。十月には二年生を対象に読書冊数調査が行われましたが、加治木高校では、本をよく読む人と、ほとんど、あるいはまったく読まない人という二極化の傾向があるようです。紹介できる冊数は多くはありませんが、この記事を通して、本を読む楽しさを知る人が一人でも増えれば嬉しく思います。

ところで今日は、あの有名な音楽家モーツァルトの命日。毎年十二月五日には、彼の葬儀が行われたウィーンのシュテファン大聖堂で、最後の作品である『レクイエム・メソソ』が演奏されます。日本でも街中がたくさんの音で溢れる十二月、『4分33秒』で知られるジョン・ケージは、日常を満たすすべての音が音楽だと語ったそうです。日頃雑音と聞き流す喧噪にも、耳をすませば素敵な音楽が隠れているかもしれないですね。

ここまで、生徒会新聞第五号でした。今回も最後まで読んで下さった皆さん、ありがとうございます。また次号で。そして今年もあと少し、楽しみましょう。(下村 将太郎)